

イエスは 生きる

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 169号

「内なる人は日々新しく」

コリントの信徒への手紙二、4章16～18節

平方 美代子



私達の人生は一人一人みな違ってきます。しかし誰にも共通なことは、毎日、年を加え一步一步死に近づいていることです。誰でも未知の死への不安を覚えます。しかし私達は漠然と死について考えることがあっても、死をなるべく考えずに明るく生きて行こうとする方向へ流れがちです。しかし老化は徐々に進行しその先に必ず死が来るのです。ですから信仰者は自分の死を御言葉によって考えることが大切でしょう。この時、次のみ言葉が心に迫ってきます。

『だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。』（コリント信徒の手紙4章16～18節）

パウロはここで困難な伝道で肉体が弱って行くのを嘆いているのではなく、その外側の肉体が弱っても、内なる人は毎日に新しくされていくと力強く語るのです。外なる人とは「体」とか「肉体」と言われるもので人の目に見えるものです。それに対して、内なる人は「魂」とか「心」というものです。もう少し丁寧に言いますと「神に向かっている自分」ということです。そういう自分が毎日に新しくされていくと言うのです。パウロはダマスコ途上で復活のキリストに出逢ったことによりキリスト者になった人でした。（信徒言行録9:1-8）

彼が自分の人生を見る時にいつもこの経験の中で見ていました。パウロの人生は神の子イエス・キリストが自分の身代わりとなり、死んでくださり新しい人に生まれ変わらせてくださった、この神の愛に感動したことが土台になっていました。自分をこれ程まで愛し助け導いてくださった神様の愛を自分の生活の上にしっかり受け取り、人々にこの神様の愛を語り伝える生き方に方向転換せざるを得なかったのです。それは大きな苦勞をとまなうものであり、外なる人の滅びをも経験するものでした。しかしそういう苦勞を喜んで負い、自分のなすべき使命を強く生き貫いたのでした。ある英国の詩人がうたいました。「私は呼吸するところでなく、私が愛されるところで生きる」と。人は神様の愛を知って自分もまた人と愛し合う、そこで本当の生きる喜びがわいてくるのです。人生の終わりがいつ来るかわからない私達ですが、主の御言葉により見えるものだけに心を奪われなくて、見えない神様の愛をしっかり受け止めて進んで行きたい。その時「外なる人」が減びても、「内なる人」が日々新たにされる喜びとお力が与えられるのです。

（日本基督教団隠退教師）

霊 想



「主をほめたたえよ」

聖書・詩編34・1～9

横浜岡村教会 牧師・安藤 脩

今、苦しんでいる人がいますか？それなら、主をほめたたえましょう。ダビデが「どのようなときも、わたしは主をたたえ、わたしの口は絶えることなく讚美を歌う。わたしの魂は主を讚美する。」(2・3)といった時、ダビデは、喜ぶことの出来る状態にあったわけではありませぬ。1節に「ダビデがアビメレクの前で狂気の人を装い、追放された時に」と記されています。これはサムエル記上21章11節からに記されている通り、ダビデは今、サウル王に追われ、逃亡生活をしているのです。それだけでなく、逃げていったガトの地は敵国であります。しかし、かつて、軍の将として誉れを得ていたダビデは、顔を知られておりました。ダビデの心には大きな恐れがありました。そのため、ついに捕らえられた時、「気が狂ったのだと見せ

かけ、ひげにやだれを垂らしたり、城門の扉をかきむしったり」しなげればならない状態だったのです。

ダビデがこのように喜ぶことの出来る状態ではなかったにもかかわらず、「わたしと共に主をたたえよ。ひとつになつて御名をあがめよう。」(4)と言ったのは、決して言葉だけの建て前ではありません。彼には既に、今までも、苦難から救っていたいただいた体験があるので、それを彼はしっかりと握り続けていました。「わたしは主に求め、主は答えてくださった。脅かすものから常に救い出してください。」(5)と。試練が続くからといって、ダビデは主に対する信仰を失うことはありませんでした。それは、自分がどんなに取るに足りない者であるかを知っていたからです。苦難のゆえに彼は、神の真実を疑うようなことはありませんでした。いと小さく、罪深い者であるにもかかわらず、主は私を選び、王となすために、油を注いでくださったと、彼は信じ続けました。

この詩は、実際に救いを体験させられた者が、神を確かなお方として、紹介していると言えましょう。そこには忍耐も必要です。しかし、主の十字架の愛を体験し、試練の時に、折れをもつて主を仰ぎ見る人は、光と輝くのです。(6) 常に

主は共にいてくださり、わたしたちの思いを超えて、最善の時、最善をなしてくださいから。

救いを体験したものが、心の底から主を讚美する時、同じ悩みにある者にとつて、慰めとなり、希望となります。「わたしの魂は讚美する。貧しい人よ、それを聞いて喜び祝え。」(3) このような証し人になりたいものです。

イエス様は、私たちのために苦しんでくださいました。それは私たちが兄弟たちのために生きるようになるためです。「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、私たちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にいる人々を慰めることができます。」(IIコリ1・4) 自分のためでなく、愛する者のために、生きるようになる時、益々、主は間近におられます。主と共に歩む歩み。そこにこそ力があり、喜びがあります。主をほめたたえよ。

味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸なことか、御もとに身を寄せらる人は。主の聖なる人々よ、主を畏れ敬え。主を畏れる人には何も欠けることがない。(詩34の9～10)

(岡村アシュラム説教)

証 立

「九州アシュラムに参加して」

塩屋 優子

私のアシュラムとの出会いは、東京聖書学校の学生の時でした。日本アシュラム連盟の理事長である横山義孝先生が東京聖書学校の舎監をしておられて、お誘いを頂き、池ノ上キリスト教会で開催されたアシュラムが最初でした。

東京聖書学校を卒業して現在は、北九州で、郷里開拓伝道の教会を夫と共に牧師しております。

初めてのアシュラム参加から20数年を経て、再度アシュラムへのお招きをいただいたのは、2010年の秋のことです。母教会の元牧師である今村幸文先生からお電話を頂いて、教会の方数名と参加しました。

その年は、私と家族にとつて人生で最大の試練の出来事がありました。私の父は、クリスチャンで、北九州で鉄工所を経営していました。その会社で試用期間に雇っていた者から、突然命を奪われるという事が起こりました。解雇が理由とはいえ、裁判を通してわかったことは、父は、その者が抱いていた上司への敵意を身代わりに受けての死でした。

その様な事件が起こってから、

まだ色々なことが解決しない状態で、母も心を痛めている時でした。鍋倉先生や鮫島先生等の出席の方々が、温かく話を聞いてくださったりしていくことで、心も安らいで行きなりました。

「イエスは主なり」とただイエス様だけを見上げ、御言葉と祈りの時間を聖別できるアシユラムの集会は、教派や教職、信徒という色々な壁を越えていく貴重な時間となりました。

長男の証は、大学3年生の、進路を祈っている時期に参加しました。大学3年の秋に「進路はどうするの？」と聞くと、「献身する」と答えたのです。「いつ決心したの？」と聞くと「アシユラムで」と答えた時には、御名を崇めました。祖父を殺した殺人者を許せない思いで苦しんでいた時に、助言者である今村幸文先生から「あなたがたに平和があるように」（ヨハネ20：26）の御言葉をいただいで、委ねることができて、献身の決意に至ったそうです。アシユラムは、私だけでなく私の家族の人生に大きな影響を与えた集会となりました。感謝します。



第31回横浜岡村教会 アシユラム報告

安藤 善枝

第31回横浜岡村教会アシユラムが7月7日（土）〜8日（日）「主をほめたたえよ」と題して当教会で行われました。今年は、新宿西教会より小杉義信兄が証し者として来て下さいました。兄の証は、とても力強く、新鮮な力を頂けて、感謝でした。

準備委員会の中で、今年は、連鎖祈禱は1日24時間とし、一人の人が祈っているかのように、しっかりと連鎖する事に力を注ぎました。丸一日、1時間を一コマとして、連鎖祈禱表に自分の名前を記入し、祈りました。そのあと当日まで5日間、自由な時間の祈禱です。

アシユラムは、開心の時が大事だと言われます。まず自発的に主の前に心を開いて待ち望みました。普段語れない大切な部分を主の前に、皆さんの前に注ぎだして、祈ってもらいます。祈りの細胞は、きめ細かに折れる大切なひと時でした。私も、祈っていたら、涙が流れました。今年のアシユラムは、昨年に出逢う旅」と題してのイスラエルのDVDを夜、じっくりと見ました。



まさに教会員みんなでイスラエル旅行に行ったようで、大好評でした。

聖日では午前8時より静聴の時間がもたれました。朝から集会室一杯の人が来られて、静まりの時を持ちました。AM9時から、こどもアシユラムと祈りの細胞に分かれました。こどもアシユラムでは、来た子供たち全員がクジを引き、小グループに分かれます。小さい子供たちもいるので、皆自分の祈りの課題を紙に書き、それを隣の人に渡して祈ってもらいます。自分のことや、お友達のことなど、いろいろな祈りの課題

が出てきます。

最後の充滿の時では、皆輪になって、一人一人このアシユラムでの恵みと、心に与えられた決心とを、分かち合う事が出来ました。アシユラムは短い時間なのですが、ストリートに真っ直ぐに自分の必要（ニード）を語ることによって、その答えを真つ直ぐに受ける事が出来ます。

岡村アシユラムは今年で31回を迎えましたが、教会のメンバーは、年に一度このアシユラムで心が洗われ、キリストの体を表すものとして清められて来たのだと思います。主の前に無条件に頭を垂れるこの時を大切にしたいと思います。それにあの連鎖祈禱は教会ならではの素晴らしいひと時ですね！

第27回浦和別所教会 アシユラム報告

山田 称子

「キリストの体を立て上げてゆく」

今年度の浦和別所教会「みことばに聴く」(教会アシユラム)が、六月九日(土)一九時より一〇日(日)一五時三〇分まで、主目礼拝を含む形式で行われました。

毎年行われる教会の大切なプログラムです。一人一人が神様のみ前



香榎園教会アシラム報告
森 哲・香榎園教会牧師

に出て、豊かな神様との語らいの時を持ちます。参加者達は、聖霊なる神様から心の内に溢れる篤き思いを注がれ、言葉では言い表せない御霊の満たしを体験します。それ故に、共に分かち合い、折りあつたグループの友の祈りの課題を、一年間祈り続けます。日毎に祈りにおいて、一つとされ続けていく恵みのアシラムです。

2012年1月29日、前日本イエス・キリスト教団若屋川教会牧師の小島十二先生を説教者、そして1日アシラムの講師としてお招きし、香榎園教会1日アシラムを行うことができました。香榎園教会では1月の行事として、古河治・静子先生の頃から行ってきました。

今回のアシラムの特徴は、小島先生からご提案をいただき、アシラムに向けて事前に与えられた聖書を読んで参加することでした。1日2章ずつ、ヤコブの手紙(全5章)

ヨハネの手紙一(全5章)ヨハネ福音書13(16章(4章))。毎日同じ聖書の箇所を読む信仰の友がいることを覚えながら読んで参加することとなりました。このことは、当日のアシラムに非常に大きな力となったと思います。

プログラム
 10..30(礼拝(アシラム聖歌2曲・説教前後)説教・小島十二牧師。11..50(昼食(おにぎり・お茶のみ)自己紹介・短い証し・メッセージを聞いての思いなど。13..00(祈りの細胞 3グループ リーダー・小島十二、古河静子、西村或松。13..45 賛美の時 アシラム聖歌1曲。14..00(聖書講義 講師・小島十二牧師、充滿の時(感謝の時)、アシラム聖歌 1曲。15..00 祝福・小島十二牧師

私自身は、2011年に香榎園教会に招聘されてからアシラムに参加するようになった初心者ですが、教会員の多くは古河治先生・静子先生の頃から1日アシラムが行われていましたので、理解も充分あり実りある1日となりました。礼拝には29名が招かれ、午後からは16名が参加いたしました。

「1日アシラムの守り方」にあるように、「1日アシラムは単に、この世との接渉から心につき重なっている精神的ならくたをすて去る以上の大きな機能を持っていきます。主イエスが、あなたがたは力を受けるであろう」と使徒行伝1章8節に約束された驚くべき神の力を、われわれに授与されることを意味しています。」という導きの言葉は、香榎園教会にとつての1日アシラムの内容を表すのにふさわしい言葉であると思います。そしてその道へ導かれたのは、聖書を読んで参加するという事前の準備でした。参加者の心を御言葉へ導くとともに、その日を覚えて祈ることができるといふ恵みが増し加えて与えられました。

この原稿は小島十二先生のお勧めにより春頃に書かせていただきました。この後、私共の敬愛する古河 治名譽牧師が7月24日に89歳で天国に凱旋されましたことをこの紙面をお借りしてご報告させていただきます。

地区アシラム予告等

- 第46回関西アシラム
とき 12年10月7(日)〜8(月)
ところ 於母の家ホテル
助言者 横山義孝
- 函館栄光キリスト教会アシラム
とき 12年10月7(日)〜8(月)
助言者 木部安来
- 第44回城北アシラム
とき 13年2月11(月)
ところ 於池の上教会
- 第20回東京新生教会アシラム
とき 13年2月16(土)〜17(日)
助言者 横山基生

訃報

古河治師(日本基督教団香榎園教会名譽牧師・日本クリスチャンアシラム連盟理事)
 2012年7月24日ご召天されました。ご遺族と御教会に主の慰めあれ。



〒一八一〇〇一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一四五五八